

## 認知症 正しく理解

右京 花園高生、接し方学ぶ



認知症の人との接し方を洛和会の関係者から学ぶ生徒たち  
(京都市右京区・花園高)

認知症について正しい知識を伝える「認知症サポーター養成講座」が3日、京都市右京区の花園高で開かれた。3年生約140人が、認知症の人との接し方や声の掛け方を学

んだ。

社会全体で高齢者を支える意識を持つてほしいと、同高が企画。介護施設などを運営する洛和会ヘルスケアシステムの岩井仁志さんが講師を務めた。

岩井さんは、認知症の人は記憶や理解力に障害が生まれ、不安や焦り、いら立ちから徘徊や暴力などの症状が出ると説明。「理解し支えてくれる人がいれば、症状は軽減される」と強調した。続いて、認知症の人が道端で困っている場面を再現し、「慌てさせたり驚かせないように、優しく

声を掛けて」と対応の仕方を教えた。生木尊さん(17)は「詳しい症状や接し方を知ることができた。自分にできることがあれば話したい」と話した。(藤松奈美)